

ぼくのスペシャルごはん
いおきしようがっこう 一年 たなかあおや
ぼくのおかあさんは、ぼくがねつをだした
りかぜをひいたり、げんきがないうきには、
いつもスペシャルごはんをつくってくれます。
スペシャルごはんとは、ぼくとぼくのおかあ
さんのひみつのごはんだけど、こっそりおし
えてあげます。

このスペシャルごはんは、ごはんにおみず
とたまごとちよっぴりのおしおをいれて、ぐ

つぐつにこんだふわふわのごはんです。しよ
くよくがないときも、おかあさんが、
「スペシャルごはんたべる？」
とやさしくいってくれると、どうしてもたべ
たくなって、たべるとしぜんとげんきかもと
ります。

どうしてこのスペシャルごはんをたべると
げんきになるんだろうとふしぎにおもったの
で、おかあさんにきいてみました。おかあさ
んはふふふとわらって、

「ごはん、すごいいね。」

といいました。おかあさんもごはんをたべるとげんきになるよといっていて、ほんとおいだとおもいました。きつとだれでもみんなごはんをたべるとげんきになるんだとおもいます。かんがえてみたら、ぼくのすきなたべものは、ごはんでつくられているものばかりです。しゃけのおにぎりもおすしもだいすきで、たくさんたべられます。ほんとうにごはん。パワーはすごいなあとおもいました。

だけど、こんなみんなをげんきにするおこめをつくっているのがさんは、もっとすごいとおもいました。もしかしたらのうかさんはすごいパワーをもっていて、みんなをげんきにするまほうをもったまほうつかいなのかもしれないとおもいました。そしてそのおこめをつかいてリョウリをつくるおかあさんはまほうつかいのでしたのかも知れません。このさくぶんをかいていたら、おかあさんのスペシャルごはんがたべたくなりました。